「社会的ネットワーク行動の動機づけ尺度」の構成概念妥当性

大学生サンプルを対象とした心理尺度との関連の検討

○平島太郎・五十嵐祐

(名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

キーワード: 社会的ネットワーク行動の動機づけ, 社会的ネットワーク, 尺度作成

Construct Validity of the Social Networking Motivation Scale: Criterion Validity among Japanese Undergraduates

Taro HIRASHIMA and Tasuku IGARASHI

(Graduate School of Education and Human Developmental Sciences, Nagoya University)

Key Words: Social Networking Motivation, Social Networks, Scale Development

目 的

従来の社会的ネットワーク研究は, 人々の関係性の構造やその影響といったマクロな要因に焦点を当ててきた (Burt, 1992)。これに対して, 本研究は, ネットワークを構成する個人の心理要因というマイクロな視点に注目して作成された「社会的ネットワーク行動の動機づけ尺度 (SNMS; Social Networking Motivation Scale; Hirashima, Igarashi, & Asano, 2014)」について, その構成概念妥当性を検討した。

Kadushin (2012) の理論を基礎とする SNMS は, (1) 他者とのつながりによって, 受容感や安心感を得ようとする安全性動機づけ, (2) 幅広く知り合いを作り, 関係性をもたない他者同士の間に立とうとする弱い紐帯・媒介性動機づけ, (3) 知り合いでない者同士を引き合わせようとする仲介性動機づけ, (4) ネットワーク上の他者よりも高い地位にいようとする地位追求動機づけの 4 因子で構成される。本研究では, SNMS の基準関連妥当性を検討するために, 社会的ネットワーク行動の動機づけと理論的に関連することが予測されるパーソナリティ (Big Five) や自己概念 (文化的自己観; Markus & Kitayama, 1991), 他者との関係性を表象した認知モデル (関係性モデル; Fiske, 1991) との関連を検討した。

方 法

参加者 Hirashima et al. (2014) のデータの再分析を行った。分析には, 2013 年 12 月から 2014 年 1 月にかけて行われた調査に参加した愛知県内の大学生 175 名 (男性 36 名, 女性 139 名, 平均 19.6 歳, $SD = 0.9$) のデータが用いられた。

尺度 【社会的ネットワーク行動の動機づけ】SNMS (Hirashima et al., 2014) は, 安全性動機づけ (7 項目; e.g., 「困ったときに相談に乗ってくれる人 (たち) との関係を保ちたい」), 弱い紐帯・媒介性動機づけ (9 項目; e.g., 「自分が知らないことを教えてくれる人 (たち) とつながりをもちたい」), 仲介性動機づけ (7 項目; e.g., 「同じような興味や関心を持つ知り合い同士を, 引き合わせたい」), 地位追求動機づけ (6 項目; e.g., 「集団の中で中心的な役割を担いたい」) の 4 因子で構成される。各項目に, 0-4 点までの 5 件法で回答を求め

た。【Big Five】TIPI-J (小塩他, 2012) の 10 項目を用いた。

【文化的自己観】相互独立—相互協調的自己観尺度 (高田, 2000) から抜粋した 10 項目を用いた。【関係性モデル】友人一名を想起させ, 4 タイプの関係性モデル (i.e., 共同的分け合い, 等価交換, 権威序列化, 費用・利益計算) を測定する尺度 (Haslam & Fiske, 1999) に回答を求めた。各尺度の下位因子ごとに平均または合計を算出し, 分析に用いた。

結果と考察

SNMS の下位尺度間に相関がみられたため ($rs = .17-.49$), SNMS を独立変数, 各心理尺度を従属変数とする重回帰分析を行った (Table 1)。その結果, SNMS と各心理尺度との関連は, 理論的な予測とおおむね整合していた。安全性動機づけは, 協調性, 相互協調的自己観, 等価交換と正の関連を示し, 開放性とは負の関連を示した。これは, 安全性動機づけが, 返報性に基づく密度が高い閉鎖的な社会的ネットワークの形成・維持と対応するためと考えられる。次に, 弱い紐帯・媒介性動機づけは, 開放性, 相互独立的自己観と正の関連, 相互協調的自己観と負の関連を示した。これらの結果は, 弱い紐帯・媒介性動機づけが, 他者の間に立ち, 情報のフローを制御するような排他的な社会的ネットワークと対応するという理論的な背景と整合的であった。また, 仲介性動機づけは, 外向性および共同的分け合いと正の関連を示した。これは, 仲介性動機づけが, 知り合い同士をつなぐことで, ネットワークの成員に利益をもたらすはたらきをもち (cf. Obstfeld, 2005), 弱い紐帯・媒介性動機づけと安全性動機づけの両方の性質を併せもつためと考えられる。

以上の結果より, SNMS の構成概念妥当性は部分的に示された。ただし, 安全性動機づけと勤勉性, および, 弱い紐帯・媒介性動機づけと費用・利益計算との負の関連については, 理論的な解釈が困難であった。また, 地位追求動機づけは他の心理尺度と有意な関連を示さなかった。今後は, サンプルサイズを大きくするとともに, 大学生以外の一般サンプルを対象とした調査を行い, 尺度の構成概念妥当性を多面的に検討する必要がある。

Table 1. SNMSを独立変数, 各心理尺度を従属変数とする重回帰分析の結果

	Big Five (TIPI-J)					文化的自己観		関係性モデル			
	外向性	協調性	勤勉性	神経症傾向	開放性	相互独立	相互協調	共同的分け合い	等価交換	権威序列化	費用・利益計算
SNMS											
安全性	-.05	.24 *	-.16 †	.09	-.24 **	-.18	.26 †	.15	.24 †	-.17	-.09
弱い紐帯・媒介性	.16	-.09	.03	-.09	.24 *	.36 *	-.41 *	-.02	.10	-.14	-.29 *
仲介性	.19 †	.03	.12	-.07	.15	-.20	.14	.36 *	.00	.13	.13
地位追求	.11	-.14	.05	.10	.15	.21	.07	-.13	-.16	.05	.07
R^2	.13 **	.06 †	.04	.02	.18 **	.14	.10	.14 *	.08	.06	.08

note. (1) † $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$. (2) 標準化係数の値を示してある。(3) SNMS: Social Networking Motivation Scale. (4) Big Fiveとの関連については $n = 141$, 文化的自己観との関連については $n = 68$, 関係性モデルとの関連については $n = 73$ のデータを分析に用いた。